



建設進む九州自動車道（御船工区）

豊かな社会づくりの基幹的条件となり
ます交通網の整備については、特に力を
注がねばならないとの認識に立っていま
す。

こうした考え方から、既にある幹線の
整備に加え、あわせて各生活圏や重要な
開発拠点を結ぶことをまっ先に取りあ
げることになりました。

具体的な施策としては、①道路用地先
行取得を積極的に進めるため、前年より
二・三％も多い予算を組み、道路建設が
スムーズに進むように考えています。②
単県道路改良事業も改良、舗装、簡易舗
装、災害防除などに重点をおき、予算も
かなり伸ばしました。③道路関連公共事
業も道路予算の伸びと併せて合理的な
建設をはかるための予算が計上されてい
ます。④菊池、阿蘇有料道路の建設、南
阿蘇有料道路の着工も見込まれていま
す。⑤熊本新港の建設促進は、「港のな
い都市」の不便さを早急に解消するため
強力に進めたいと考えています。

★道路用地先行取得……

二十五億六千九百万円

道路建設に限らず公共事業を進める上
で、最も困難なのが用地の取得であり
ます。このため、県では、道路用地を先
行取得してスムーズに建設ができるよう
考え、積極的に予算措置をしました。前
年は十一億一千二百二十万円であったも
のを、今年度は二十五億六千九百万円
と、二・三％も伸ばしました。

主な道路名をあげると、川尻バイパス
延長千メートル分として、二億六千三百
万円、松橋バイパス千四百メートル、二
億八千六百万円、東バイパス三千二百メ
ートル、十六億五千万円、植柳敷川内線
三千三百メートル八千三百万円、国道二
一九号線二百メートル五千万円、三三四
号線千五百メートル一億五千万円、三二
五号線千六百メートル八千七百万円など
となっております。

この予算は主として交通渋滞区間にお
けるバイパス建設と、その他の緊急を要
する道路について積極的につけました。

★単県道改良事業……三十億五千万円

今年度の特徴は単県道路改良事業費が
前年度二十五億五千万円であったもの
が、今年度は三十億五千万円に大幅に増
額されたことです。

★道路関連公共事業……

百二十七億六千四百七十三万円

道路関連の公共事業は前年度百一億六
千九百九十四万円で対して、今年度は百
二十七億六千四百七十三万円と可なりな
伸びをみせました。

このうち、改良費に使われる予算が六
十四億六千七百円で、もっとも大きな
数字を示しています。次に舗装に当てら
れるものが二十七億一千九百六十万円、
橋梁十七億二千六百五十万円となってい
ます。

種（現道舗装）をふくみ舗装率を一〇〇
％とする方針です。

重点整備の主要路線として、九州縦貫
道インター関連の玉名山鹿線、玉名八女
線、熊本浜線の整備、若北河浦線、本渡
下田線、松島電ヶ岳本渡の整備、人吉宮
原線などの促進をはかります。

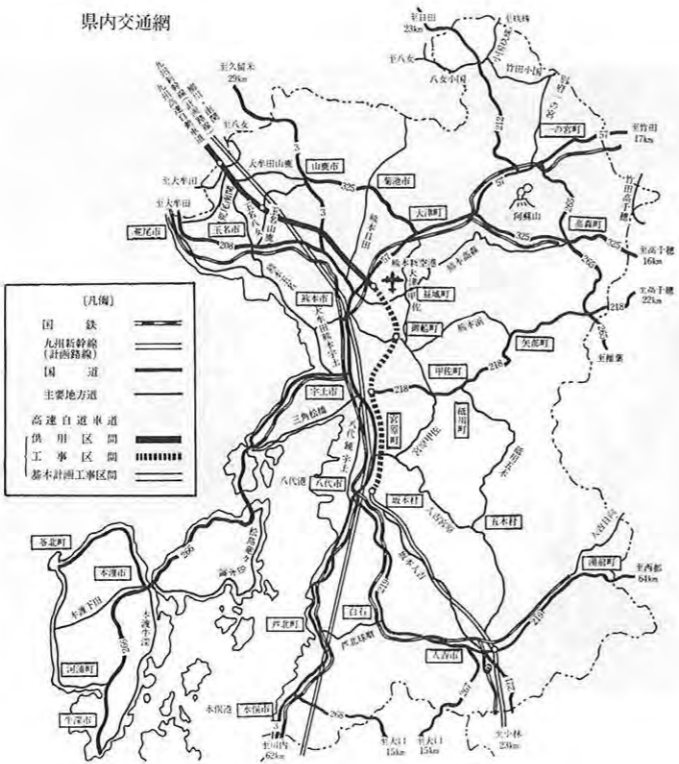
一般県道は、昭和五十二年度末に単県
舗装、特改四種で舗装をはば一〇〇％と
し、昭和六十年で、一次改築を完了す
る予定です。

昭和四十八年度は主要地方道、一般県
道の整備費として四十一億二千三百万円
をかけ、道路の改良、舗装の新設、橋梁
の整備などを行ない地域開発につとめる
つもりです。

★菊池阿蘇有料道路……七億円

長洲町を起点として、荒尾、玉名、山
鹿、菊池の各市を経て菊池水源の溪谷に
至り、阿蘇スカイラインと連結し、九州
横断道路の一部を通り、南小国町、小国
町に至る一連の道路のことを「城北開発
横断道路」と言います。この道路は、九
州縦貫自動車道「菊水インター」とも連
絡し、さらに長洲から海路、雲仙、長崎
とも結ぶものです。観光路線として極め
て重要な路線になります。

この道路の一環となる菊池阿蘇スカイ
ラインは県道大観峰水源線の一部、一万
一千七百三十メートルを県営有料道路と
します。このための予算を今年度は六億
円計上しました。いまのところでは、こ



すが、これについても思い切った予算を
計上しました。ガードレールその他の安
全施設費を三億三千九百万円を組んでい
ます。

その他予算措置で主なものは補助五億

七千六百十九万九千円、直轄負担金九億三千
六百五十四万九千円などです。

主要地方道については、昭和五十五年
度を目標に一次改築（幅員五・五メー
ル）を完了し、昭和四十九年度で特改四

としの秋から初冬には開通、一般に供用
される予定です。これが供用されると地
域の有力な観光資源と直結したルートだ
けに観光客の増加が見込まれます。

有料道路の工事は、このほか南阿蘇有
料道路の着工も予定し、今年度一億円を
計上しました。

★熊本新港の建設促進……

四千六百二十二万円

熊本市圏に本格的な商業流通港を持
つことは熊本県の将来にとって大変重要
なことです。

予算の上から、今年度の新港実施への
動きをみますと、前年度二千二百九十四
万円の予算だったものが、今年度は調査
費四千六百二十二万円があげられていま
す。この予算は県の予算であって、熊本
市でも積極的な姿勢を示し三千三百五十
万円を組みました。県と市が一体になっ
て事業を進めようというわけです。

現在計画しています熊本港の建設費を
正確に見積るには、さらに詳しい調査、
設計、施工法などをつめる必要があります
が、現段階では概ね総額四百五十億円
が見込まれています。

ご承知のように建設を予定している熊
本海岸地帯一帯の地質は白川、緑川から
流下してきた粒子のこまかいシルト質の
土砂であり、岸壁築造のためには相当の
地盤改良が必要であろうと思われま
す。 こんご漁協その他関係各位のご協力が
是非必要であらうかと痛感されます。